

Phoenix Club



陽のあたる道へ



贈る言葉

先輩から

私が学生の頃は、学部棟の半分地下室のような所に総合科学部の学生の溜まり場みたいな部屋があって、そこでいろんな友達と話をしていました。勉強のこととか、将来どうするかとか。自分が言いたいことを

話し合う力を身に付けるのは、大学の時です。とにかく、友達と議論すること。自分だけで考えていると自分が見えなくなってしまう。

『コミュニケーション能力』とは、話し合う力を身に付けるのは、大学の時です。とにかく、友達と議論すること。自分だけで考えていると自分が見えなくなってしまう。

私たち行政マンが作る政策の成否は、みんなです。ただ、ただ知恵を出し合ひ話し合ったかにかかっているんですよ。話し合ううちに必ず、何か方法が見えてきます。そうして、新しい可能性が見えてきて、メンバー個々に新たな視野が拓けてくるんですよ。

知恵を出し合ひ合って成長する。行政に限らないと思いますが、実社会ではさまざまな問題が突きつけられます。気が重くなり、できれば回避したいと思うのが人情ですが、実はこれがチャンス。逃げたのではなく、しっかり自分で考えることが大切です。といつても、一人で考えられることは限られています。だから、いろいろな人がそれぞれの考えを持ち合ひ、話し合います。

知恵を出し合ひ合って成長する。



前延 国治さん
東広島市総務部職員課 課長
広島大学総合科学部同窓会 会長

●広島県東広島市出身。昭和55年、広島大学総合科学部を卒業。東広島市職員に。大学時代は少林寺拳法部に所属し、役員として4年まで活動していた。「私は東千田町(広島市)で学んだけど、母校が地元に来たのはうれしい。大学と自治体、お互いに協力して、いい方向を拓きたい」

「問題」は「チャンス」

言い、人の意見を聞く。その中から、自分の軸ができてくるのだと思います。

今、「コミュニケーション能力が大事」とか言われますが、これは教わることじゃなく、人と話す中で磨かれるものだと思います。

まず、人の話を聴こう。

実は、私、市の職員になって悩んだんですよ。ここで自分は何をすべきか、何を目標に仕事をするか、そういう軸が、自分がないことに気がついたんです。その時、矢幡治美さんの本に出会いました。矢幡さんは大分県大山町で「一村一品運動をまちの振興につなげた人です。」「そうか、こういうやり方もあるのか」と、目を開かされました。しかも、それが広島大学工学部の前身校の出身者だったんです。

行政は法律や条例を地域に適用するだけではありません。そこに暮らす人と一緒に、地域を動かして変えていくこともできるのが、公務員。そう考えたら、自分の立つ位置、考える視座といったものが見えてきたような気がしました。

だから、私は住民の方の話を聴くことを大事にしています。皆さん、何か「問題」を持つてこられる。これをしっかり受け止めて、考え、知恵を出し合う。社会を動かす、小さな一歩、そう、チャンスなんです。

株式会社損害保険ジャパン 常務執行役員中国本部長兼四国本部長
福澤秀浩さん(昭和52年 政経学部卒業)

これからのビジネスマンの基礎要件は、 コンピュータと英語、そして継続する力。



目指せ、三田会、稲門会

広大には慶賀を持っています。実は、卒業後30年というところで、第1回のホムカミングデーに、東京から参加したんです。初めて東広島キャンパスに行きました。初回だったので参加者は少なかったけど、学長とお話することができ、「大学が変わろうとしている」姿勢を感じることができました。東京で仕事をしていると、広大卒を意識する機会是非常に少ない。損保ジャパンにも、総合職で30人ほど、広大卒がいるし、最近の人も結構多いんですがねえ。全体的に、どうも存在感が薄い。よく聞くのは、慶應の「三田会」とか、早稲田の「稲門会」。人数も多いし、私立大学の同窓意識は強いですよ。

広大は「憧れ」だった

当時の僕たちの町では、広大は憧れだった。「広大に合格することだけを目標に勉強して

の2階の部屋に行つては、先輩や友達という話をしました。

先生たちとフットボールをしたり、大学祭に屋台を出したり、市民のための無料法律相談をやったり……。法研での思い出は、話さねないくらいあります。でも、それ以上に、僕は、その後の人生を支えてくれる考え方や姿勢を、ここで学んだと思っています。生涯の友達も、ここで得た。法研は、僕の人生の「基礎」です。

伊藤先生は、一昨年亡くなりましたが、法研の仲間とは、今でも折に触れて連絡を取って集まっています。

仕事の姿勢は大学で身に付けた

学生時代の4年間は本当に短かった。楽しかったし、勉強も面白かったから、本当は卒業したくなかったんですが、経済的余裕もそれほどなかったんで、仕方ない、就職しようかと。企業研究をはじめたのは4年の9月くらいでしたかね。当時は「就職協定」があつて、4年生の10月1日から就職活動できなかったんですよ。

よく言われるでしょう、「大学での勉強なんか、実社会では役に立たない」って、僕も、「保険会社なら、好きな法律の知識を少しは活かせるかな」と思っていたけど、実際には、それほど関係なかった。でもね、大学時代、特に法研で身に付けた「事実や根拠を踏まえて物事を判断する姿勢は、ずっと、仕事を遂行する力になつてきた。これは確かです。

変化の時代の人材

世の中がどんどん変わつていっているでしょう。企業も変化しています。僕が入社したのは、安田火災海上ですが、その後合併があつて、今では損害保険ジャパンという名前に変わりました。120年以上の歴史を持つ会社ですが、社会の変化に対応するスピードは速く、柔軟性も大きい。これからも変わっていくでしょう。

基礎は「法研」にあり

広大に進学することが目的だったので、学部はどこでもよかった(笑)。社会学が好きだったので政経学部にしたというだけです。はっきりとした目的を持って入学したわけじゃなかった。楽しかったですよ。

教養の時のチューターが法社会学の伊藤護世先生だったので、サークルも、先生が顧問をしておられた法研(法律社会学研究会)に入つた。今はもうないようですね。汚いサークル棟



どうあるべきか、その中で仕事をやる人間は、じゃあ、実務的なところで

は、英語とコンピュータはしっかり身に付ける。これは基本です。

その上で、僕は、学生さんには、いろいろな経験をすることを勧めます。クラブ活動もいいし、アルバイトや旅行、特に海外旅行ね。幅広い世界を経験することで、人間としての視点が広がります。もう一つ、読書。本を読むことで自分以外の人生を仮想体験できますからね。そうやって、変化に対応できる力を磨いてほしい。

「続ければ面白さが見えてくる」ウチの会社は、ベーパーテストよりも面接を重視しています。これからの損保ジャパンの方向性と合致する人材かどうかを、ちゃんと見きわめなければなりませんからね。

人事部長時代の面接で、僕が重視したポイントは2つ。ひとつのこを続けられるかということ、何事にも向かっていくチャレンジ姿勢があるかどうかということ。若い人はすぐに結果を求めようとするが、「石の上にも3年」、まず、与えられた仕事を真剣にやってみよう、それが大事です。そうすれば、周りが見えてきて、仕事が面白くなつてくる。ひとつのこを続けるということが大事ですよ。

そうそう、当時の人事課長に、広大出身者の印象を尋ねたら「真面目で誠実」という答えでした。これは、悪いことじゃない。その上に、継続して努力できるという人、どんどん当社に応募してください。

福澤秀浩さんプロフィール

広島県三次市出身
三次高校から広島大学政経学部へ。昭和52年、当時の安田火災海上保険(株)入社。業務、営業、広報、人事などを経験。平成12年から大分、京葉千葉の支店長を歴任。人事部長を務めた後、平成20年から中国本部長、平成21年から四国本部長兼務。平成19年から執行役員、翌20年から常務執行役員。

株式会社損害保険ジャパン
資本金700億円、総資産4兆8,564億円
社員数1万7,042名、全国に4万9,430の代理店を持つ損害保険会社。自動車保険や火災保険から、法人相手の保険まで、幅広く取り扱つて、2008年にアジア地域統括会社を設立。欧米のほか中国、インド、台湾、韓国、ブラジルなどを海外事業も展開している。

表紙「贈る言葉」取材を終えて



祖(経済学部) 役員所は、国が決められたことを実行する機関だと思つていました。しかし、前延さんは反対のことをおっしゃいました。「住民の方々の距離が近いわれわれが、その声を政策化して県へ、そして国へ届けることが重要だ。それが、国を動かすことにつながる」。目からウロコです。

小田(教育学部) 2つの意味で視野を広げることの大切さを教えていただきました。まず、さまざまな立場の人と交わつて視野を広げること。もう一つは、将来を考える。時間的な視野の広さです。すぐにやりたいことができなくても、チャンスが来るまで地道に努力を続けることが成長の鍵になるのではないかと思います。

加茂川(総合科学部) 前延さんは、今でも大学時代の友達と会っておられるそうです。「組織も社会も、しよせん、人と人のつながり」と言われました。大学で学ぶことは、知識だけではないんだ、あらためて思いました。

後輩から

先輩インタビューを終えて



道垣内(経済学部) 大手企業の経営陣の方にお話をうかがうのは初めて。緊張しましたが、とても気さくに話してくれました。

「石の上にも3年」と、福澤先輩は言われました。よく言われる言葉ですが、会社での自分の経験を踏まえて話してくださったので、「なるほど」と身にかけてきました。つひつ、仕事を通して考え、身に付けてきたことを話してくださったのだと思います。私ももうすぐ社会人になりますが、多分福澤先輩のお話を、いろいろな場面で思い出しながら、その意味を納得していくでしょうね。ありがとうございました。



尾道産ハッサクを使った新製品。左から『はっさくドリンク』（今岡製菓㈱）、『せとこまち』（㈱にしき堂）、『旬 ハッサクマーメイド』（アヲハタ㈱開発、レインボー食品㈱販売）

地域貢献研究から生まれた地域ブランド『せとこまち』ほか 尾道産ハッサクの利用を研究室から提案。 産学連携で開発された食品。

●60周年に新製品デビュー

昨年秋の『広島大学創立60周年』記念の日。にぎわうサタケメモリアルホール前広場でも、ひとときわんだかりのブースがありました。広島大学地域貢献研究から生まれた「ハッサク製品」の試食販売ブース、和菓子、マーメイド、ドリンク——広島大学で確認された尾道産ハッサクの有用性を活かした、地元食品メーカーによって開発された3つの新製品のデビューです。

●ハッサクの機能性を確認

商品化研究の中心は、生物園科学研究所の矢中規之准教授。ハッサクの乾燥粉砕物に、他のかんきつより強い中性脂肪、血糖値・血中コレステロール値を調整する作用があることを、動物実験で確認しました。

「いや、私だけの成果ではありません。平田敏文先生や研究室の加藤純久教授、それに医学部附属薬用植物園長の神田博史先生、それぞれの視点や発想があっただけで研究です。それに、異なる分野の研究者や企業を一つの方向にまとめていった地域連携センターの役割が大きかったと思います。矢中准教授は、大学を横断するプロジェクトであることを強調します。



矢中准教授（後右）と研究室の学生たち。実験を繰り返して尾道産ハッサクの機能性を確認していた。

●コーディネートは地域連携センター

地域連携センターは、広島大学の産学連携を、戦略的に進める組織。大学への理解を広げるとともに、地域の行政や企業と連携して、広島大学の人や研究を活用する活動を行っています。

尾道産ハッサクの地域貢献研究

尾道市の『シトラスパーク瀬戸田』の活性化をテーマに、広島大学大学院理学研究科の平田敏文教授（現名誉教授）を中心にスタートした研究。600品種ものかんきつ類の遺伝子の有効活用を図るシトスライブラリー構想を基に、かんきつ類の機能性を評価。一部のかんきつ類に肥満抑制・ガン抑制の機能があることを発見し、特許を申請した。さらに、経済品種を使った製品化に取り組んだ矢中規之准教授がハッサクに肥満抑制効果があることを動物実験で確認。この成果に基づいて、地元食品メーカー3社が独自のハッサク製品を開発した。

経済品種であるハッサクの機能性研究と、食品メーカーとの間をコーディネートしたのも、地域連携センターです。

●「苦み」が人気?

「地域連携センターの先生が声をかけてくださったので」と、商品化を手がけた株式会社にしき堂の大谷博国社長。機能性のある果皮まで、尾道産ハッサクを丸ごと煮込んだジャムを求肥（ぎゅうひ）で包んで、オリジナル和菓子『せとこまち』を開発しました。「ハッサクの苦みが和菓子に合わないという意見もあったのですが、逆に、それが特長となって、他にない和菓子ができました」

●広島大学と連携したい

にしき堂は、水と材料にこだわったのみじ饅頭や、『生のみじ』などで人気を博してきた和菓子メーカー。試験的に限定販売した『せとこまち』も、あつと言いつきに売り切れ、お客さまからの問い合わせが相次いでいるとか。今シーズンのハッサクを使った製品が店頭で並ぶのは3月になる予定です。「広大との連携は、以前から願っていたんですよ。今回、大学の前向きな姿勢もよくわかりました。これを第一歩に、これからも連携していきたい」と大谷社長。広島大学の研究から生まれたハッサク製品。豊かな実りが期待できそうです。



『せとこまち』パッケージは、広島大江崎哲教授のデザイン。

次の時代の人材を育て オープンで活力ある組織を。 医学部医学科広仁会

広島県立医学専門学校、広島県立医科大学、広島医科大学及び広島大学医学部医学科の卒業生を中心に、広島大学病院・原爆放射線医学研究所の教員、医師、医員（研修医）、大学院学生、研究生までを包含する組織。

会長：新本 稔（昭和40年卒） 会員数：4,614名（平成21年6月現在）



広仁会館



新本 稔 会長

幅広い人材が集う組織

「広仁会は広島大学医学部医学科の同窓会」と思いきや、「卒業生はもういなくて、それだけでなく、他大学の卒業生であっても、教員や研修生など、広大医学部医学科に籍を置いた人すべてをネットワークする組織です」と、新本稔会長がきっぱり。

医療技術の進歩や制度の変化が急速に進む医学界。幅広く有能な医学者をネットワークして、広仁会、さらには医学部医学科を活性化したいという意欲が、その口調にうかがえます。

1クラス100人時代の同窓会

広仁会の発足は今から55年前。新本会長自身も、在学中から広報担当として広仁会に関わっていました。「当時の医学科は1学年40人程度。そりゃあ家族のな雰囲気でも、仲間意識も強かったですよ。卒業して広島で活躍する人も多かったしね」

しかし、現在では1学年の学生数は100人以上、卒業後も約半分が広島を離れていきます。当然、同窓意識も希薄になっています。その中で、時代の変化もあり、医学部医学科は比較的同窓意識が強い方じゃないかな。広仁会も、24の支部を置いて、各地に散らばった人たをカバーしています。たとえ広島を離れた人も、広大という足場を忘れずに腕を磨き、広仁会に活力を与えてほしいですからね。共に医学を学んだ医師も各地の広仁会で活躍しております」

広仁会の理想を描く

新本会長は、会長就任後、広仁会役員に思い切った若返りを断行しました。「時代の変化に対応しながら、土台のしっかりとした組織を作るには、人材です。私の使命は、次の時代を担う人材を



新本会長が広報担当として立ち上げた「広仁会々報」。年2回の発行で、すでに40年近く続いている。

育てることだと思っています」広仁会が各地の医学界で実績を積み、お互いに切磋琢磨しながら広仁会を刺激あふれる組織としていく——新本会長は、広仁会の目指すべき目標が描かれているようです。

◆入会申し込み・連絡先変更は広仁会事務局まで

〒734-8551 広島市南区霞1丁目2番3号 TEL: (082)257-5098 FAX: (082)256-5300
E-mail: koujin@prof.ocn.ne.jp
Webサイト: <http://www.koujin-med.jp/index.html>

卒業生名簿整理へのご協力をお願い

広島大学校友会では、校友会の交流事業の一環として卒業生名簿整理を行っています。卒業後の住所や氏名などの情報について、Webサイト等よりご連絡ください。

WebサイトURL: <http://phoenix.hirodai.jp/koyukai/>
E-mail: sec@phoenix.hirodai.jp
(氏名〔旧姓含〕、住所、連絡先、卒業年、卒業学部、勤務先等)
※ご提出いただいた個人情報、校友会及び同窓会の活動（校友間の交流支援、学生への就職支援）のみに使用させていただきます。個人情報保護法を遵守して厳正に管理いたします。

校友会事務局から

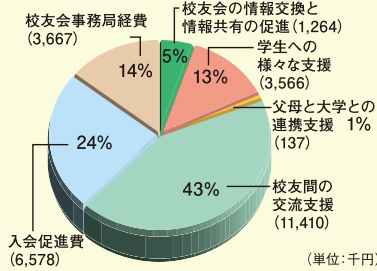
【平成20年度広島大学校友会支出報告】

平成20年度における広島大学校友会の支出について、まだ設立したばかりというところもあり、年度による支出割合は一定とされておりませんが、平成20年度は校友会組織の重点的強化を図るため、特に入会促進に力を入れました。

なお、支出総額は26,622千円となっており、事業項目ごとの内訳については、左の円グラフのとおりとなっております。

また、平成20年度の収入を含めた詳細な支出状況については、広島大学校友会Webサイトに掲載しております。

校友会支出内訳



【平成20年度広島大学校友会事業報告】

- 平成20年度における広島大学校友会の事業項目ごとの活動内容については、次のとおりとなっております。
- ◆ 校友会の情報交換と情報共有の促進
- ◆ Webサイトより情報発信
- ◆ 学生会の様々な支援
- ◆ 学生の課外活動の支援
- ◆ トリウムチャレンジ賞の支援
- ◆ エコパワの支援
- ◆ 父母と大学との連携支援
- ◆ 学位記授与式における無料送迎入会の支援
- ◆ 校友間の交流支援
- ◆ 第2回ホームカミングデーの開催
- ◆ 校友会案内リーフレットの配付
- ◆ 入会記念特典グッズの配付
- ◆ 各種印刷物の発行等
- ◆ 校友会事務局経費
- ◆ 校友会事務局人件費（理事会（一回）、常任理事会（一回）、Web作成・管理等）



広島大学から初のプロサッカー選手が誕生

工学部4年の村上一樹さんがJ2のFC岐阜に入団することになりました。村上さんは愛媛県出身。「サッカーの強い国立大学へ」と広大に進学。工学研究科への進学が決まっていますが、休学してのプロ入りです。ポジションはディフェンダー。

FC岐阜は天皇杯でベスト8に進むなど着実に力をつけているチーム。昨シーズンのリーグ戦は12位でしたが、村上選手の活躍で上位を目指してほしいものです。皆さん、ぜひ、声援を!

隕石から新磁性材料を発見

理学研究科の圓山裕教授が、JASRI(高輝度光科学研究センター)、高エネルギー加速器研究機構、東京大学などと共同で、隕石から次世代磁気デバイスに有用な新磁性材料を発見しました。鉄隕石のテトラナイト相は、希少金属フリーで極めて優れた機能性を示し、磁気デバイスの高密度化・省電力化・省資源化につながると期待されています。

国際宇宙ステーション利用でタンパク質の結晶化と立体構造解析に成功

BATは、抗がん剤プレオマイシンを不活性化にする酵素。1994年に医歯薬学総合研

広島大学の4か月間が一目でわかる

PHOENIX通信

究科の杉山政則教授によって発見されました。杉山教授は、プレオマイシンを制御するためにBATの立体構造を解明しようと、宇宙航空研究開発機構(JAXA)の宇宙ステーションを利用しての実験プロジェクトに応募。ロシアの宇宙船ソユーズで宇宙ステーションにBATタンパク質溶液を運び、微小重力場で3~4か月かけ、良質な結晶を作ることになり成功。BATの立体構造を決定しました。地上実験でもプレオマイシン、BATなどの複合体の立体構造の決定に成功。抗がん剤の制御や新規タンパク質の創生に役立つと期待されます。

優秀学生顕彰社会貢献分野で広大生が大賞を受賞

奨学金などで学生たちの支援を行っている日本学生支援機構は、毎年、優秀学生を顕彰しており、広島大学の学生も受賞しています。2009年度は、総合科学部4年の青



山陸紀さんが大賞を受賞。青山さんは「あしなが育英会」の募金活動に参加したほか、1年間休学して津波被害を受けたインドネシアに滞在し、遺児たちの心のケアに力をつくしてきました。こうした活動が評価され、社会貢献分野の大賞に輝いたのです。

たくみ 内匠透教授の論文に「ベルツ賞」

医歯薬学総合研究科の内匠透教授の論文が第46回ベルツ賞2等賞を受賞しました。ベルツ賞は、ドイツの製薬会社ベ



リンガーインゲルハイム社により、日本の近代医学の発展に大きな功績を残したドイツ人医師ベルツ博士の名を冠して設立されたもの。第46回は「精神疾患—うつ病、統合失調症など」をテーマにした論文が対象で、内匠透教授の研究は、近年増加しているうつ病などの治療法開発に貢献すると期待されています。

佐々木勇教授に「新村出賞」

新村出賞は、日本の言語研究の草分けであった新村出博士の業績を称えて設立された賞。国語学(日本語学)や言語学での重要な貢献に対して授与されていますが、最近2年間は受賞者がありませんでした。2009年度は教育学研究科 佐々木勇教授の『平安鎌倉時代における日本漢音の研究』が受賞。佐々木教授は、1987年にも鎌倉時代語研究会の一人として新村出賞を受賞しており、2度目の受賞となりました。



学生プラザはキャンパスの中心部に建設中。

学生たちの提案・アイデアを活かしたい。学生プラザ、間もなく完成

東広島キャンパスに「学生プラザ」が間もなく完成します。学部や研究科の枠を超えて、学生と教職員などが交流できる場とするともに、学生参加型の大学運営を目指しています。キャリアセンターやアクセシビリティセンターや保健管理センターなど、学生生活をサポートする機関がここに集約されることになっています。

なお、校友会事務局も、5月下旬には学生プラザ2階へ移転することになっています。

中国四国学生駅伝で広大が30年ぶり13度目の優勝

12月6日に開催された第53回中国四国学生駅伝競走大会で、広島大学Aが、3連覇を狙う広島経済大学を押さえ優勝しました。記録は2時間48分5秒。広島大学としては13回目、実に30年ぶりの優勝。さらに、この大会は、第22回出雲全日本大学選抜駅伝競走中国四国地区予選会も兼ねており、優勝によって出場権を獲得しました。

文書館の存在が知られるようになって以来、卒業生や元教職員などから学内配布物や会議資料、講義ノートやアルバムな



小宮山道夫准教授

卒業生から寄せられる資料。元文相の森戸辰房氏を初代学長に持つ広島大学は、優れた学者や政治家、ジャーナリスト、文筆家などを輩出してきました。そうした先達が、自ら記した日記や作中影響を受けた人からの手紙、人生の中で触れた本などを集めた個人文庫は、没後遺族から寄贈されたもので、それ自体が広島大学の風土を強烈に物語るものです。

懐かししの広島大学写真展

ホームカミングデーの定番「センチ」広島大学の歴史「パネル展」。東千田町の古い校舎や各新旧キャンパスの写真に、多くの人たちが懐かしそうに見入っています。このパネル展を開いているのが文書館です。

キャンパス ZOOM

日本の大学の中でもトップレベルのアーカイブズと評される広島大学の公文書館。公式資料だけでなく、懐かしい写真や意外なお役立ち資料も発見できそうです。

「広島大学の歴史」パネル展。(2009年11月6・7日)

編集後記

◆卒業生にお話を聞きたびに、「広島大学はすごかった」とか「面白かったねえ」というお話が出てきて、取材する学生さんといっしょに「へえ」と驚きます。広島大学に居ても、何も知らないことを思い知らされる取材です。◆もう一つ、毎回感じるがあります。それは、卒業生の皆さんが、とてもうれしそうなお話で学生時代の思い出をお話してください。今の在学生の皆さんも、何年か先、うれしく学生時代の思い出していただけるよう、私たちスタッフも頑張らねばならないと肝に銘じています。



膨大な資料の分析・整理が今も続けられている。

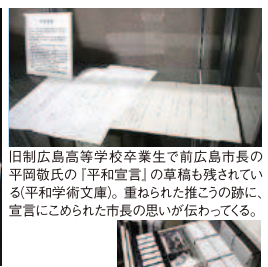
文書館では広島大学の学生生活などに関連する資料を探しています。お手持ちの写真やクラブの会報、ミニコミ紙などを寄せてください。

「記録・公開」が組織を進化させる。「広島大学の今の歴史を記録する」が文書館の仕事と、小宮山道夫准教授。記録公開前提となることは、教育や研究事務など、大学で日常的に進められているすべての事業をプラットフォームさせるパワーになります。「記録すること、残すことの意味は、皆さんが思っている以上に大きいんですよ。」小宮山道夫准教授の言葉に力が入りました。◆広島大学文書館の所蔵目録は、2010年度から順次ウェブ上で検索が可能となる予定です。

歴史の裏まで見えてくる? 勝者の視点で描かれることの多い歴史を、客観的に評価する資料となるのが公文書。第二次世界大戦や沖繩返還交渉などの歴史が、アメリカの公文書館の資料によって新しい側面を見せることになったのは、記憶に新しいところ。公文書によっても、誰もが、より真実に近い全貌を把握できます。同様に、広島大学の「客観的な歴史」を実現するのが、文書館に保管された資料たちなのです。保管資料の中には、議事録や交渉記録などの「途中経過」も保管されており、「広島大学の歴史」というオプティミズムな歴史の裏の、そこに至る経緯までが、ここには記録されているというわけです。



「広島大学50年史」編集のために大学の各部署から収集した資料が、アーカイブズの土台となった。中には捨てられる寸前の貴重な資料もあったという。



旧制広島高等学校卒業生で前広島市長の平岡敏氏の「平和宣言」の草稿も残されている(平和学術文庫)。重ねられた推考の跡に、宣言にこめられた市長の思いが伝わってくる。文書だけでなく音声・映像資料も保管されている。

広島大学校友会 ためり
Phoenix Club
『Phoenix Club』Vol.7
平成22(2010)年2月24日発行
(年2回発行予定)
編集・発行:広島大学校友会事務局
〒739-8511 広島市鏡山一丁目3番2号
TEL(082)424-6015 FAX(082)424-6020
8:30~17:00(土日祝を除く)
E-Mail ●sec@phoenix.hirodai.jp
Webサイト ●http://www.hiroshima-u.ac.jp/koyukai/